

ウトロ地域マリンビジョンニュース

発行・編集・・・ウトロ地域マリンビジョン協議会事務局

ウトロ地域マリンビジョンニュースは、町民のみなさんと一緒にウトロ地域で水産業を核とした地域振興を進める「ウトロ地域マリンビジョン計画」の推進状況などをお知らせするお便りです。

ウトロ地域マリンビジョン協議会 からの報告

平成25年12月2日にウトロ地域マリンビジョン協議会を開催しました。協議会ではマリンビジョン計画の見直し方針について、強化する将来像として「観光と漁業の連携による地域活性化」「漁業収入の増加」を追加する将来像として「防災・減災体制の強化」とすることが決まりました。

また、人工地盤等の利活用と設備について、「人工地盤2階の水揚げ見学スペースの窓を多く設けてほしい」、「バリアフリーと安全に配慮して人工地盤1・2階の行き来を容易にしてほしい」などの意見が出されました。そして、人工地盤等のうち観光客の利用が主となる施設については観光関係者を対象とした協議の場を設けることになりました。

ウトロ地域マリンビジョン計画の見直し方針

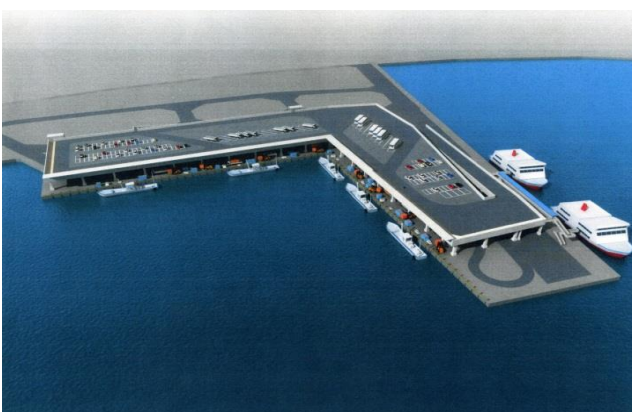
○強化する将来像

- ・観光と漁業の連携による地域活性化
(人工地盤を利用した漁業作業の見学等)
- ・漁業収入の増加
(付加価値向上による漁業所得の増加)

現在の水揚げ風景



人工地盤イメージ図



現在は水揚げ作業と見学が同じ空間で行われているため、人とフォークリフトやトラックなどがぶつかる危険性があります。

現在整備中の人工地盤では1階で水揚げ作業、2階で水揚げ作業の見学というふうに見学客と漁業者・フォークリフト・トラックが完全に分離されるので観光客の安全が守られます！

また、人工地盤1階部分は衛生管理エリアとなり、漁業関係者・漁業関係車両が以外は立ち入り禁止となります。

こうすることによって、漁獲物の品質が向上し、単価アップが期待されます！

ウトロ地域マリンビジョン計画の見直し方針

○追加する将来像

・防災・減災体制の強化

(人工地盤や特定目的岸壁の防災・減災目的の利用)

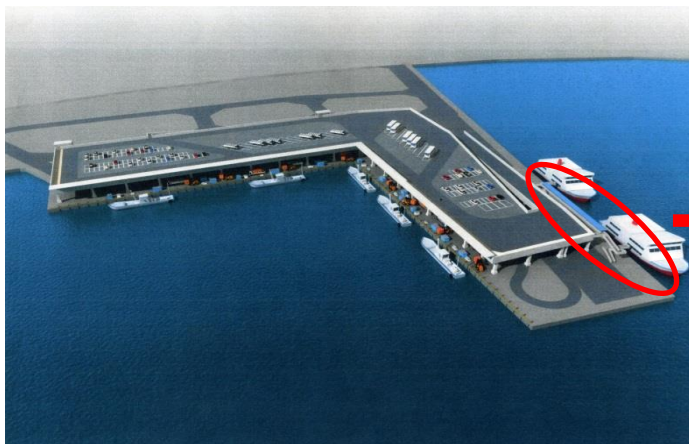
斜里町地域防災計画では海上輸送について、
『陸路の遮断によりウトロ地区への陸上輸送に不可能な事態が生じたときは、網走海上保安署に対して、巡視船艇による傷病者、医師、避難者等又は救援物資の緊急輸送を要請する。
なお、巡視船艇等はウトロ漁港を海上輸送基地として輸送活動を実施する。』(一部抜粋)
と位置づけられております。

平成25年7月21日には羅臼海上保安署所属の巡視船かわぎりが人工地盤に整備されている『特定目的岸壁』を災害時の対応に備えるため試験使用しております。



斜里町には年間120万人の観光客が訪れております。その観光客の大半は世界自然遺産「知床」の玄関口であるウトロ地区を訪れます。

ウトロ地区への陸路は国道334号線(知床峠は冬期間閉鎖)の1本しかなく、国道が遮断された場合の観光客や地域住民の安全確保として海上輸送は重要となってきます。



特定目的岸壁は巡視艇のほか、大型観光船の使用を想定し、整備されております。